

比率による収益分析について、2社の具体的な数値例を用い比較しながら説明しなさい。

2003年度の岩崎電気株式会社（以下I社）と同業のウシオ電機株式会社（以下U社）のそれぞれの連結貸借対照表と連結損益計算書を参考（添付資料）に比較しながら収益性分析をおこなう。

## 1. 資本利益率分析

### 1.1 総資本事業利益率(%)

$$I社 = \frac{2,438+369+6+45+38}{(28,275+26,713)/2} \times 100 = \frac{2,896}{27,494} \times 100 = 10.53\%$$

売上高事業利益率と総資本回転率に2分解すると

$$\Rightarrow \left( \frac{2,896}{70,498} \times 100 \right) \times \frac{70,498}{27,494} = 4.11\% \times 2.56 \text{ 回}$$

$$U社 = \frac{15,006+2,920+878+243+933}{(117,727+105,583)/2} \times 100 = \frac{19,980}{111,655} \times 100 = 17.89\%$$

$$\Rightarrow \left( \frac{19,980}{99,082} \times 100 \right) \times \frac{99,082}{111,655} = 20.17\% \times 0.89 \text{ 回}$$

コメント：U社はI社に比べ、総資本事業利益率が高いのは売上高事業利益率が非常に高炒めえある。しかし総資本が多いため総資本回転率は低い。

### 1.2 経営資本営業利益率(%)

$$I社 = \frac{2,438}{(11,223+10,582)/2} \times 100 = \frac{2,438}{10,902.5} \times 100 = 22.36\%$$

売上高営業利益率と経営資本回転率に分解すると  $\Rightarrow \frac{2,438}{70,498} \times 100 \times \frac{70,498}{10,902.5} = 3.46(\%) \times 6.47(\text{回})$

$$U社 = \frac{15,006}{(29,685+29,038)/2} \times 100 = \frac{15,006}{29,361.5} \times 100 = 51.11\%$$

$$\Rightarrow \frac{15,006}{99,082} \times 100 \times \frac{99,082}{29,361.5} = 15.15(\%) \times 3.37(\text{回})$$

コメント：U社はI社に比べて経営資本営業利益率が約2倍となっている。その内容は売上高営業利益率が4.3倍となっているが回転率が0.5倍である。

### 1.3 自己資本純利益率(%)

$$I社 = \frac{649}{(26,713+28,275)/2} \times 100 = \frac{649}{27,494} \times 100 = 2.36\%$$

売上高純利益率と総資本回転率と財務レバレッジに分解すると

$$\Rightarrow \frac{649 \times 100}{70,498} \times \frac{70,498}{28,275} \times \frac{28,275}{8,641} = 0.92 (\%) \times 2.5(\text{回}) \times 3.27(\text{倍})$$

自己資本回転率=8.16 (回)

$$U \text{社} = \frac{9,346}{(19,556+19,556)/2} \times 100 = \frac{9,346}{19,556} \times 100 = 47.79 \%$$

$$\Rightarrow \frac{9,346 \times 100}{99,082} \times \frac{99,082}{117,727} \times \frac{117,727}{19,556} = 9.43 (\%) \times 0.84(\text{回}) \times 6.02(\text{倍})$$

自己資本回転率=5.07 (回)

コメント：U社はI社に比べ自己資本純利益率が約20倍であるが、総資本回転率は0.84と低く十分に資本が活用されていない。

## 2.売上高利益率分析

I社とU社の百分率損益計算書(%)

|          | I社%   | U社%   | I-U   |
|----------|-------|-------|-------|
| 売上高      | 100   | 100   |       |
| 売上原価     | -74.3 | -63.1 | -11.2 |
| 売上総利益    | 25.7  | 36.9  | -11.2 |
| 販売管理費    | -22.2 | -21.7 | -0.5  |
| 営業利益     | 3.5   | 15.1  | -11.6 |
| 営業外収益    | 0.5   | 2.9   | -2.4  |
| (うち金融収益) | 0.1   | 2.1   | -2.0  |
| 営業外費用    | -1.0  | -1.4  | 0.4   |
| (うち金融費用) | -0.5  | -1.0  | 0.5   |
| 経常利益     | 2.9   | 16.7  | -13.8 |
| 特別利益     | 0.4   | 0.7   | -0.3  |
| 特別損失     | -0.7  | -1.0  | 0.3   |
| 税引前当期純利益 | 2.6   | 16.4  | -13.8 |
| 法人税等     | -1.4  | -6.5  | 5.1   |
| 当期純利益    | 0.9   | 9.4   | -8.5  |

コメント：売上原価率はI社の方が11.2%高いため売上総利益率は11.2%低い。販売管理費はほぼ同じであるため売上高営業利益率はU社の方が11.6%も高い。営業外費用では差は少ないが営業外収益ではU社が2.4%高いため売上高経常利益率では更にU社の方が13.8%も高くなっている。特別損益では差はないが最終的な売上高当期純利益率では8.5%の差が出ている。

## 3.資本回転率分析

売上債権回転率(I社:U社)

$$= \frac{70,498}{(24,152+24,107)/2} = 2.9 \text{ (回)} = \frac{99,082}{(27,464+32,468)/2} = 3.3 \text{ (回)}$$

棚卸資産回転期間(I社: U社)

$$= \frac{(10087+10183)/2}{70498/365} = 52.5 \text{ (日)} = \frac{(15320+16651)/2}{99082/365} = 58.9 \text{ (日)}$$

有形固定資産回転率(I社: U社)

$$= \frac{70,498}{(19,427+19,698)/2} = 3.6 \text{ (回)} = \frac{99,082}{(23,142+24,455)/2} = 4.2 \text{ (回)}$$

手元流動性比率(I社: U社)(ヶ月)

$$= \frac{(12,711+12,987)/2}{70,498/12} = 2.2 = \frac{(17,900+15,491+11,107+13,112)/2}{99,082/12} = 3.5$$

コメント：経営資本回転率は I 社の方が 1.9 倍とおおきいが、棚卸資産回転期間では大差はない。売上債権回転率は U 社の方が良い。有形固定資産回転率も U 社の方が良好である。手元流動性比率でも U 社が 1.6 倍であり優れている。結果的には U 社の方がより資本的に余裕がある。 (A)